

広報

おやすみ

2019

4

No.171

待ち焦がれた春

NEXT きらめき★

竹内 夏帆 さん

愛媛県立伊予農業高等学校 3年（長浜町櫛生出身）

全国高校生パンコンテスト 伊豆の国市教育長賞



伊予農業高等学校3年(受賞時)の竹内夏帆さんは、1月19日(土)、20日(日)に静岡県伊豆の国市で開催された「第13回全国高校生パンコンテスト」に出場しました。全国から応募のあった521点の中から書類審査を通過した24人で競われ、特別賞である「伊豆の国市教育長賞」を受賞しました。

竹内さんが製作した「はちみつジンジャーデレモンジャー」は、デニッシュ生地、紅茶生地を包み込んだパンです。レモン、蜂蜜、ショウガを使用し、地産地消にもこだわっています。

2年生のときにも全国大会に出場した竹内さん。「去年入賞できなかった悔しさをバネに、もう一度挑戦しました。入賞することを目標に試行錯誤を繰り返しながらオリジナルパンの製作に取り組んだ結果、誰もが笑顔になれるパンを作ることができました」と爽やかな笑顔で話していました。

竹内さんは、県外への進学を決めていて「パンコンテストで培った技術や経験を生かして、これからもいろいろなことに挑戦したいです」と、今後の抱負を述べていました。

※今月号から、高校生以下の全国およびそれに類似する大会に出場した人を紹介します。

4月の納税など 納期限は5月7日(火)です。

税 別	4月	5月	6月	7月
市 県 民 税			1期	
固 定 資 産 税	1期			2期
軽 自 動 車 税		1期		
国民健康保険税				1期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。今年度から市県民税と固定資産税が4期納付になります。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人 口	43,322人 (- 22)	件 数 6件(20件)
男	20,668人 (- 14)	死 者 0人(0人)
女	22,654人 (- 8)	負 傷 者 7人(29人)
世帯数	19,830世帯(- 11)	

(2019年2月末現在)

CONTENTS 目次

- 2 ページ NEXTきらめき・今月の表紙
- 3 ページ～ (特集)古き町並みを後世に
- 6 ページ～ おおずニュース
- 13 ページ シリーズ
- 14 ページ～ おしらせピックアップ
- 22 ページ～ 情報ひろば
- 24 ページ 集まれO級若モン
- 25 ページ～ 図書館・保健センター・各種相談ガイド
- 28 ページ がんばるひと
(手話サークル「ドリーム」)

今月の表紙



2月28日(木)、畑の前橋下の河川敷で菜の花が色鮮やかに咲き誇っていました。ミツバチが花のみつを集め、春の到来を告げていました。

菜の花の花言葉は「快活」です。みなさんも、身近な春を探しに出かけてみませんか。



(特集) 古き町並みを後世に
～肱南地区調査報告会・シンポジウム～

肱南地区の歴史的町並み調査

— 解明された大洲の特徴と変遷 —

2カ年にわたり実施してきた肱南地区に残る歴史的町並み調査の最終報告会とシンポジウムが1月27日(日)、市役所大ホールで開催されました。

まず、前半の調査報告では、調査してきた内容と、調査で分かってきた肱南地区の町内の特徴について、岡山理科大学から報告を受けました。



図1 調査実施家屋
(黄・赤：平成29年度調査 緑：平成30年度調査)

建築年代		棟数	備考
江戸時代	末期	10	1棟：嘉永4(1851)年
明治時代	初期	6	
	中期	5	
	末期	3	1棟：明治41(1908)年
大正時代		7	
昭和時代		9	
合計		42	

表1 調査結果による建築年代

1 歴史的建造物の特徴と変遷

今回、地区内42棟の歴史的建造物の調査を実施しました(図1)。小屋組(屋根を支える屋根裏の骨組み)の状況、和釘の使用、部材の煤け具合などから建築年代を割り出したところ、表1のように江戸時代から昭和初期にかけて建てられた建物が数多く残されていることが分かりました。中でも、唯一の棟札発見となった建物は、嘉永4(1851)年の建築であることが分かり、大洲の町家の中で

も一番古いものとして、建物の時代や構造を比較する目安となりました。

2 接客空間(客間)の位置関係

一般の町家が2階部分に接客空間(客間)を作るのは、明治後期と言われています。しかし、大洲では、江戸時代末期に建てられた建物で客間の2階化が確認されたことから、他地域に比べて2階の発達が早いことが検証されました。これは、間口が狭い上、店間を設けた1階では十分な客間を確保できないためと推測されます。

次に、来客を招いて接待する客間は、家の中でも重要な部屋で、家を平面的に見た場合、家の中心部分に対して道側(表)、奥側、家の左右のどこに配置するのかわかるのでその町の傾向が分かります。大洲の場合、道に平行して座敷を置いた家では、志保町通りを境として西側では大洲城向きに、東側では大洲神社向きに配置していることが分かりました。

また、この2方向を上座とした場合、1階の通り土間は下座に設けられていることも分かりました。

3 町割りの変遷と町並みの復原

今回の調査では、建物の道路側に石積み水路が確認されました(写真1)。現在使用されていないこの水路は、建物内に取り込まれているケースもありますが、街区を取り囲むように存在していることが分かりました。江戸時代の町家の奥行は約9間(16・7メートル

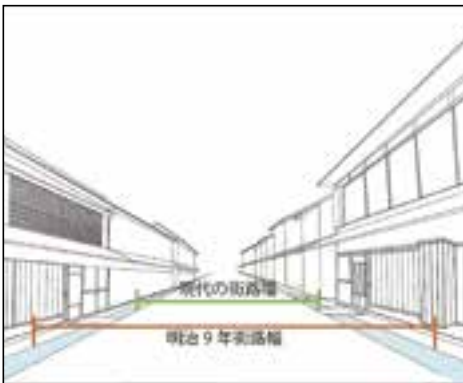


図2 昔の肱南地区の街路幅



写真1 確認された旧水路

ル)で、現在の町家境の背割り排水から旧水路の内側までが約9間であることから、江戸時代の道幅は、現在よりも広く、道の両側には水路が通っていたことも判明しました(図2)。

また、江戸時代の建物の痕跡から、建物1階の軒は腕木で支えられた出桁造(軒を深く前面に張り出した造り)であることも分かり、江戸時代には、町家の前面に水路を通し、出桁造の意匠を持った町並みが広がっていたことが明らかになりました(図3)。

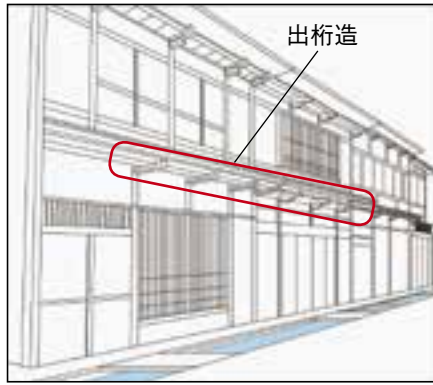


図3 昔の町並みの復原イメージ図

調査報告を聞いた市民からは、「町並みの外観を残していく上で、いつの時代の町並みを目指すべきか」との質問がありました(写真2)。

これに対して、江面教授は「今



写真2 報告会内容について質問する市民

回の調査で、大洲の町並みは江戸時代から昭和初期と時代的にも幅広い建物が混在していることが分かった」とし、「建物の保存については、画一的に一つの時期を指すのではなく、それぞれの時代の良さを残していくことこそが、町並みを保存していく上で、最も重要である」と結論づけ、報告会を締めくくりました。

4 町並みの保存と活用を考える

後半のシンポジウムでは、「歴史的町並みを残すには…」をテーマに、まず岡山理科大学工学部建築学科の江面嗣人教授による「歴史文化を活かしたまちづくり」と題した講演が行われました(写真3)。

江面教授は、文化財の保存と観光のあり方について、「本物の文化財に接することで、より文化の理解を深め、文化財保存に向けた環境づくりにもつながり、それが、観光面に生かされてくる」と指摘しました。



写真3 江面教授による基調講演

パネルディスカッションでは、先駆的に歴史的町並みの保存を行っている3つの地域(岡山市北区西大寺・岡山県小田郡矢掛町・福山市鞆の浦)の団体の代表者から、町並み保存に至る経緯や現状、取り組むべき課題についての報告がありました(写真4)。

また、歴史的な建造物活用的一面では、兵庫県篠山市を中心に古民家再生に取り組んでいる一般社団法人ノオトの金野幸雄代表理事による歴史的建造物の活用に向けた提案の講演がありました。



写真4 パネリストによるパネルディスカッション

報告後は、各報告に対する質問に答える形で討論が行われました。市民からは、「住民の主体的保存の意識を高めていくためには何が必要か」、「保存会での世代交代はどのように考えているのか」など数多くの質問が出ました。

これに対して、コーディネーターを務めていただいた江面教授は、「若い人のみでは町並みの保存は困難としても、年長者の意見も取り入れ、お互い連携を図りながら進めていくことが歴史的町並みを残していく基本的な姿勢である」と総括してシンポジウムを閉じました。